

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、
日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する 資質・能力	「基礎的な知識・技能」「課題発見・解決能力」「コミュニケーション能力」
広瀬学園の取組に対して、 広瀬の子ども達が、自分らしく伸び伸び と過ごせるよう見守っていきたい。 学校側の取組をもっと、地域・保護者に 発信し、広瀬のよさを伝えてほしい。協 力できることは、今後もしっかりサポ ートするので、言ってもらいたい。	学園生活に満足している児童・生徒、自 分らしさを出しながら、自分のペースで 学んでいると感じる児童・生徒は多い。 さまざまな個々の課題を抱える児童・生 徒たちはそれぞれの背景を持つが故から か、とても優しい子たちが多く。自分自 身に自信が持てなかったり、学びへの抵 抗感を持つ児童も少なくないのが現状。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	「自律」：夢や目標に向かって見通しをもちねばり強く行動できる姿 「共生」：友達の良さを認め課題解決において共に取り組む姿
		中学校区として 統一した取組等	小中合同行事を効果的に仕組み、異年齢交流や大人数での活動を行い、児童生徒の「や ればできる」「やってよかった」と感じる体験を積みませ、自己肯定感を高める。

ミッション	育成する 資質・能力	①「基礎的な知識・技能」②「課題発見・解決能力」③「コミュニケーション能力」
「自律」と「共生」を核とした一貫性のある9年間を通した取組で、 「自分らしく ハッピーに」生きる児童・生徒を育成する。		
学校教育目標	めざす 子ども像	①<小1～小4> 基礎的な知識・技能を身に付け、友達と共有し、自分なりの考えを表現することができる。 ①<小5～中1> 基礎的な知識・技能を着実に身に付け、仲間や友達と共有し、自分なりの考えを表現しながら、生活や他教 科と関連付けて使うことができる。 ①<中2～中3> 基礎的・基本的な知識・技能を着実に獲得しながら、他者と協働し目的に応じた解決策を導き出すことがで きる。 ②<小1～小4> 学びたいことややってみたいことを見つけて、実際に活動したり考えたりすることができる。 ②<小5～中1> 自ら課題を発見し、見通しをもって解決方法や学習計画を考えて、よりよい方法で実行することができる。 ②<中2～中3> 物事を多面的に見たり、経験や知識を活用したりする中で、新たな課題を発見し、よりよい 解決方法を選 択することで、目的に応じた解決策を導き出すことができる。 ③<小1～小4> 目的や立場を理解して、他者と協力して活動することができる。 ③<小5～中1> 多様な他者と互いに考えを認め合いながら、協働することができる。 ③<中2～中3> 多様な他者と協働することで、新たな考えを創造し、適切かつ効果的な解決策を導き出すことができる。
現 状	テーマ	「マイプロ」を通した自己理解の推進と自己探究力、表現力の向上
<児童生徒> 不登校傾向、大人数の集団に馴染めない等、さまざまな背景を持った児童・ 生徒が多く在籍している。年度途中から転入学する児童生徒も多い。そのため、 学力の定着の差が顕著に見られ、自分を表現することや人間関係を築くことに 課題があり、自己肯定感が低い児童生徒が多い。	研究 内容等	○教科・学年の枠を超えた新教科「広瀬タイム」内の自己探究分野「マイプロ」を主材とする。 ○「やってみたい」を軸とした課題の自己選択・自己決定、自己成長するための解決方法の選択、実行、より 学びを深めるための情報収集や対話の推進、学びの振り返りと表現方法の選択などを含めた自己探究力育成
<授業> 学園全体で、自分のペースで学べることを大切にしている。 児童・生徒が主体的に授業に取り組める工夫や異年齢での関わりを大切に取 り組みを進めている。 基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させるために、学び直しや具体物を使 って基礎的な事項の定着を図るなど個に応じた指導に取り組んでいる。	めざす授業の姿	○(授業の姿) 自分らしさを出しながら、どんどん自分で伸びようと成長しようとする授業 ○(児童・生徒の姿) ①自己選択・自己決定 ②豊富な失敗・試行錯誤 ③フィードバック(振り返り) ④発信力・表現力 ⑤協働する力 ⑥人や情報とつながる力 ○(教師の姿) ・与えすぎない、教えすぎない ・引き出す対話(ファシリテート力) ・環境の提供(人・物・場所) ・選択肢の提供 ・つなげる力(人と情報と)

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立広瀬学園小・中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期・中期経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	《デザイン部》 『自分らしく 学び・伸び ることがで きる児童・ 生徒の育 成』 ・主体的・自律 的な学びの力 ・個に応じた 学力 の向上	★	新 規	①自分らしさが出 せる学びをデザ インし、主体的 な学びを推進す る。 ②自分らしい学び を進め、自分の 学び方を習得 し、個に応じた 学力を向上させ る。	「学習の個性化」 ①広瀬タイムを通 して自分らし さを出し、主体 性を促す単元 づくりを推進 する。 ①マイプロを通し て探究型の学 びを推進し、主 体的に学ぶ力 を育成する。 「指導の個別化」 ②自分らしいペー スで学び、自分 の成長を実感 できる自律型 の学習を推進 する。	【児童生徒アンケ ート 肯定評価 80%】 ① について ・自分らしさを出 して行事・イベ ントに参加でき た。 ・マイプロは自分 らしく学ぶこと ができ、探究す る力がついたと 感じる。 ②について ・授業では自分に あった内容やペ ース、学び方な どを選択するこ とができる。 【福山市学力調査】 ・「学力の伸びが みられる」 広瀬タイムでは、個別最適化が進 んでいるが、授業において自分で学 習の内容を選んだり、決めたり、自分 にあったペースで、意欲的に取り組 めているについては、まだまだ改善 の余地が認められる。 (福山市学力調査) 4月実施 ・「学力の伸びがみられる」は、12月 の再調査後に結果分析	①について (行事・イベント) 肯定的評価【児童・生徒】 小が 91.7%、中が 90.3%で、 平均は 91%。 (マイプロ) 肯定的評価【児童・生徒】 小が 97.2%、中が 93.5% で、平均は 95.3%。 ハッピー広瀬グラウンドゴルフ大 会をはじめ、学区民運動会と小中縦 割りを意識した取組が充実した。 マイプロについては、「自由に好き なことができる」点が最大の魅力、 自己選択型学びとして高く評価され ている。小学校では「友達と自由に 楽しむ活動」、中学校では「自分の 関心を探索し成長につなげる時間」 へと進化している。 ②について (自分らしい学び) 肯定的評価【児童・生徒】 小が 80.6%、中が 90.6%で、 平均は 85.6%。 広瀬タイムでは、個別最適化が進 んでいるが、授業において自分で学 習の内容を選んだり、決めたり、自分 にあったペースで、意欲的に取り組 めているについては、まだまだ改善 の余地が認められる。 (福山市学力調査) 4月実施 ・「学力の伸びがみられる」は、12月 の再調査後に結果分析	4	4	①について (行事・イベント) ・後半の行事イベント(広瀬万 博・学園社会見学)を、児童・ 生徒起点で主体的な小中縦割 り活動として実施していく。 (マイプロ) ・現在の取組を継続すると同時 に、非認知能力の成長を児童・ 生徒自身に意識・実感させて いく。 ②について (自分らしい学び) ・小学校について、一斉授業 の形態が主となるが、自 己選択・自己決定を伴っ た個別最適化部分をさら に積極的に導入してい く。中学校は、主体性や協 働性の高い数学を手本 として、更なる授業改善へ とつなげていく。 (福山市学力調査) ・個の伸び100%を目指 し、個の得意・不得意をサ ポート計画を活用しなが らしっかりと把握し、個 に応じた取組を進めてい く。	①について (行事・イベント) 肯定的評価【児童・生徒】 小が 84%、中が 93.3% で、平均は 88.7%。 (マイプロ) 肯定的評価【児童・生徒】 小が 97%、中が 92.3% で、平均は 94.7%。 広瀬タイムやマイプロを通して、 自己選択を軸とした探究的な学 びが定着してきた。学園祭は実 行委員主体で運営され、小中の 関わりが深まる中で、新たな行 事が生まれるなど主体性が一層 高まった。マイプロでは発表の場 の工夫や教員の横断的な関わり により、児童生徒が肯定的な評 価を受け、主体性と自己有用感 の高まりが見られた。 ②について (自分らしい学び) 肯定的評価【児童・生徒】 小が 78%、中が 87.1% で、平均は 82.6%。 一斉授業を主にしながらも、個に 応じた指導を各担任が継続的 に行い、時間・場所・内容を柔軟に 変化させることで、継続的な学 習へ導くことができています。また、 特別支援の視点から授業を改 善し、児童の自律的な学習の支 援となった。 (福山市学力調査) 4月と 12 月に実施。 ・学力の伸びがみられる児童生徒 は、小が国・算ともに 37.5%、中が 国 50%、数 26.7%。	4	3	4	・児童生徒の発想や思いを 出発点として、企画・準 備・運営まで主体的に関 わる縦割り発動へと発展 させる。マイプロについ ては現行の自由度を維持 しつつ、振り返りの視点 を工夫し、粘り強さや協 働性など非認知能力の成 長を児童生徒自身が言語 化できるよう支援を充実 させていく。 ・児童生徒の思いを軸に、 学習場所や学習課題を 柔軟に捉え、児童生徒が 自分のペースで学習で きる環境を整えていく ・一斉授業の中でも、児童 生徒が自己選択・自己決 定できる場面を意図的 に増やし、授業づくりポ ートフォリオを用いた 授業改善・教材研究を進 めていく。
1	《サポート部》 『自分らしく 生活し、ハ ッピーと感 じられる、 未来への希 望が持てる 児童・生徒 の育成』	★	新 規	①自分らしく生 活できる居場所 づくりを進め、 行きたいと思う 魅力ある学校づ くりを進める。	①一人ひとりの違 いを認め合い、 自分らしくいら れる風土づくり を学校全体で進 める。 ①小中の隔てなく 職員と児童生徒 の関わりを進 め、安心できる 信頼関係を構築 する。	①について 【児童生徒アンケート 肯定的評価80%】 ・自分らしさが認 められている。 ・学園に信頼でき る先生(話しや すい先生)がい る。 ②について 【教師アンケート 肯	①について (学校満足度) 肯定的評価【児童・生徒】 小が 88.9%、中 90.7%で、 平均は 89.8%。 (自分らしさが認められている) 肯定的評価【児童・生徒】 小が 77.7%、中 87.1%で、 平均は 82.4%。 (学園に信頼できる先生がいる) 肯定的評価【児童・生徒】	4	4	①について (自分らしさが認められている) ・小学校の 77.7%は、実際には 互いを認める優しい行動は多い 実態から、自分らしさを認める 行動をしている認識が薄いと考 えられる。言葉にしながら意識 させていき、自覚を進める。 (学園に信頼できる先生がいる) ・教育相談 Co を中心とした組織 力の強みを活かし継続して、個	①について (学校満足度) 肯定的評価【児童・生徒】 小が 92%、中 93.3%で、 平均は 92.7%。 (自分らしさが認められている) 肯定的評価【児童・生徒】 小が 86%、中 76.7%で、 平均は 81.4%。 (学園に信頼できる先生がいる) 肯定的評価【児童・生徒】	4	4	4	① について ・小中の分け隔てなく、子 どもたち同士で関わり、 認め合うとともに、自分 らしさを発揮できるよ うな場づくりや支援を、 教員が意識的に行って いく。 ・複数の教職員による多様 な視点や支援の仕方、 子どもが安心して相談で きるような、体制の工夫

	・学校満足度 ・自己肯定感 の向上			②自分自身の理解を進め、自らの生活の課題を克服できるように、個に応じたサポートを展開する。	②すべての児童生徒一人一人に焦点を当て、長期的な視野を持ち計画的な支援を継続する。 ②個別のサポート計画を活用し、自らの良さを伸ばし、課題に向き合いながら成長させることで自己肯定感の向上を図る。	定評評価100%】 ・一人一人に計画的・継続的な支援を続けた。 【児童生徒アンケート80%】 ・個別のサポート計画を通して、得意・不得意など自分を知ることができた。	小が94.5%、中が96.9%で、平均は 95.7%。 子どもに合わせた居場所づくりや、小中合同の生徒会企画等、小中の垣根を超えて学校全体で行うことができている。子ども自身が自分の良さに気づくことができるような声かけや支援を今後も継続する。 ②について (一人一人に計画的・継続的な支援を続けている) 肯定的評価【教職員】 学園100%。 (個別のサポート計画を通して、得意・不得意など自分を知ることができている) 【児童・生徒】肯定的評価 小が86.1%、中が83.4%で、平均は84.8%。 個別のサポート計画の作成を通し、子ども一人一人に合わせた計画的な支援の仕方を教職員間で協議し、実行することができている。個別のサポート計画を、子ども自身が「自分を知る」ことができるような、記述の書き方やフィードバックの仕方について今後も検討の余地がある。		に寄り添いながらの取組を継続して進める。 ②について (個別のサポート計画) ・小は、週1回のこべサボタイムの継続実施。 ・中は、こべサボタイムを設定予定、より精度の高い目標管理・フィードバックができるように改善していく。	小が89%、中が90%で、平均は89.5%。 広瀬学園祭でのマイプロ発表や学園社会見学等、子どもたちが多くの人と関わり合い、認められる経験を得たことで、自己肯定感の高まりが見られた。子どもが誰にでも気軽に相談できるような、教職員のチーム作りを今後も進める。 ②について (一人一人に計画的・継続的な支援を続けている) 肯定的評価【教職員】 学園100% (個別のサポート計画を通して、得意・不得意など自分を知ることができている) 【児童・生徒】肯定的評価 小が76%、中が86.2%で、平均は81.1%。 教職員間で個別のサポート計画を共有することで、複数の視点から子どもを見取り、支援する体制を組むことができている。一方で、子どもの意欲や自己肯定感につながるような記述の仕方について課題が見られる。			や相談できる環境を整える。 ② について ・小中ともに、定期的なこべサボタイムを継続し、教職員間で子どもの様子や目標、支援を共有しチームで連携しながら、計画的に実施していく。 ・個別のサポート計画が、「自分を知る」ことや、子どもの自己肯定感が高まるものとなるような、記述やフィードバックの仕方を検討し改善していく。
I	《総務部》 『自分らしさが出せる、強みを活かせる教職員の育成』 ・自分らしさが出せる風土醸成 ・自分らしさを活かした参画意識の向上	★	新規	① 自らの強みや自分らしさについてお互いの良さを認め合い、強みを発揮できる場を豊富に設定していく。 ② 小中の対話の機会を増やし、9年間を通して児童・生徒を育てる意識を高めていく。	①MTH研修等での対話を通して、強みや自分らしさをお互いに認め合える風土を醸成する。 ②学園ミーティング、学園分掌会等 小中の枠を超えた対話を多く取り入れ、小中一貫の学園風土を構築する。	【教職員アンケート 80%以上】 ①職場で自らの強みや自分らしさが認められている。 ②小中の枠を超えた対話が増え、学園としての意識が高まった。	①について (自分の強みや自分らしさが認められている) 肯定的評価【教職員】 小が100%、中が83.3%で、平均は91.5%。 ②について (小・中の対話) 肯定的評価【教職員】 小が100%、中が100%で、平均は100%。 小・中が学園として動きやすい仕組みづくりを進めたことで、学校全体や各分掌会も学園として取り組むことができつつある。また、授業においても中学校教員が専門性を活かして授業を行う等、児童・生徒を全体で育む気風が生まれている。	3 3	①について ・ MTH 研修等を通して My challenge や強みを交流し、自分らしさの相互理解を促進、教職員の自己肯定感・効力感醸成を進めていく。 ②について ・各研修はできるだけ、小中混合のグルーピングで対話を促進し共通理解を深めていく。また①でも述べたように MTH 研修を実施し、小中の意識の壁を払拭し、小中 9 年間の系統性ある取組を継続して進めていく。	①について (自分の強みや自分らしさが認められている) 肯定的評価【教職員】 小が80%、中が87.5%で、平均は83.8%。 〈MTH 研修〉満足度 100% (全3回) ②について (小・中の対話) 肯定的評価【教職員】 学園 100%	4 4 4	① について MTH 研修内において、my challenge 交流を行った際には、悩みやうまくいかないことも交流できたり、自分の取組を後押ししてもらえたり、互いの良さを認め合える風土醸成に有益であった。 ② について 意図的に多くの小中での対話を増やしていくことで、共通理解が深まるとともに、難しさの状況も具体的に把握でき、学園としての一体感をより感じられるようになってきた。 来年度も引き続き対話を重視し、学園目線で考える研修を仕組みながら、自分らしさの出せる職場づくりを推進していきたい。	

I	《総務部》 『保護者・地域から信頼される学校』	新規	① 保護者・地域との連携の機会や交流の機会を増やし信頼度アップにつなげる。	①グラウンドゴルフ、マイプロサポートなど、昨年度以上に参画してもらい機会を増やしていく。	【保護者アンケート 肯定的評価 80%】 ・「学校の取組に満足している。」	①について (学校満足度) 肯定的評価【保護者】 小96%、中87.1%で、平均91.6%。 ・小中が一体となって、グラウンドゴルフ大会を実施し、児童・生徒・保護者同士の交流の機会となった。また、6月の参観日では、福山市のご協力のもと、児童・生徒・保護者が防災教室で緊急対応について学ぶことができた。	4	4	①について ・保護者同士の交流行事を後半にも一つ企画し(予定)、年間を通じた交流を	①について (学校満足度) 肯定的評価【保護者】 小89%、中92.3%で、平均90.7%。 〈保護者アンケート〉から ・一人一人を尊重してくれている。 ・トラブルに迅速に対応 ・子どもの特性をよく理解してくれている。	3	4	4	① について これ以上の連携機会や交流の機会を増やしていくことは難しいところもあるが、児童・生徒の「やりたい」に応じ、必要であれば連携強化を進めていく。保護者・地域連携については、今後も継続していきたい。
			② 情報発信の方法を工夫し、より学園の取組について理解を進める。	②学園祭などのイベント企画案内をより広範囲に発信し、見に来ていただく。 ②様々な機会を通して地域・保護者への情報発信(すぐーる・HP・SNS等)を積極的に行う。	②について ・学園祭等への見学参加者200人 【保護者アンケート 肯定的評価 80%】 ・広瀬学園の教育方針や教育活動、児童・生徒の様子は、通信やメール、ホームページ等によって、知ることができている。	②について (学園祭：広瀬万博) ・10月の実施に向けて取組中 (情報発信) 肯定的評価【保護者】 小は100%、中87.1%で、平均は93.6%。 ・個人情報の取り扱いに配慮しながら、「すぐーる」を活用し、保護者や地域へ情報を発信した。			②について (広瀬万博) ・200人の見学参加者に向けて、現在取組中 (情報発信) ・「すぐーる」を軸とした情報発信を強化。 ・児童・生徒作成発信のInstagram等の活用強化。 ・HPについては、個人情報に配慮しながら、掲載内容・更新内容を精査していく。	②について (学園祭：広瀬万博) ・広瀬万博参加200人達成 (情報発信) 肯定的評価【保護者】 小は96%、中96%で、平均は96%。 ・個人情報や著作権の観点からホームページからの情報発信から、すぐーる(メール配信)を軸とした情報発信へシフト。				② について 個人情報保護や著作権の観点から、情報発信の軸をすぐーる(メール配信)を中心とした発信方法へシフトした。

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評価点	評価基準	評価点	評価基準	評価点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。